

報道関係者各位

ソウル工芸博物館共同企画 「螺鈿匠の図案室」 展開催

駐日韓国文化院はソウル工芸博物館と共同で、特別企画展「螺鈿匠の図案室」を2026年6月4日(木)から8月8日(土)まで開催いたします。

螺鈿漆工芸とは、アワビや巻き貝の殻で器物を装飾し、その上に漆を塗り重ねて仕上げる、高麗時代から受け継がれてきた韓国を代表する伝統工芸です。煌びやかに輝く螺鈿漆器の華やかさの背後には、匠たちが心血を注いだ「図案」がありました。本展は、作品の造形美を決定づける核心要素である「図案」を実際の作品と比較鑑賞できる展示です。

韓国の螺鈿漆工芸の近代化を牽引した先駆者・全成圭(チョン・ソングユ)と、その薫陶を受けながらも独自の芸術世界を切り拓いた近現代の金奉龍、宋周安、沈富吉、閔種泰、金泰熙計6名の匠の希少な図案と作品を比較しながら彼らの足跡をたどるとともに、その伝統を受け継ぎ今日の螺鈿漆工芸を牽引する金聖洙や崔相勳らの作品も一堂にご覧いただけます。

展示初日には連携プログラムとして「韓国の螺鈿漆工芸の伝統と匠」をテーマにしたソウル工芸博物館キム・スジョン館長による特別講演及び韓国国家無形文化遺産「螺鈿匠」保持者・崔相勳(チェ・サンフン)匠人による螺鈿装飾の実演を実施する予定です。

つきましては、本イベントの周知にご協力いただけますようお願いいたします。

資料のご依頼、取材のお申し込みは、駐日韓国文化院(03-3357-5970)までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

【イベント概要】



■会 期：2026年6月4日(木)～8月8日(土)

※休館日：日曜日、祝日、韓国の休日(7/17金)

※開幕式：2026年6月4日(木) 16:00～

■螺鈿漆工芸講演：2026年6月4日(木) 14:00～15:00

■螺鈿技法の実演：2026年6月4日(木) 15:15～15:45

■会 場：韓国文化院 ギャラリーMI ◆入場無料

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-10

■アクセス：地下鉄メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」一番出口より徒歩3分

■展示内容：近現代の螺鈿漆工芸の巨匠6名の作品・図案展示、現代の螺鈿匠6名の作品展示

■主催：駐日韓国文化院、ソウル工芸博物館

■後援：文化体育観光部、韓国国際文化交流振興院(KOFICE)

【お問い合わせ】駐日韓国大使館 韓国文化院 ☎03-3357-5970 ◻www.koreanculture.jp

イベント担当 河聖煥(ハ・ソンファン) / 広報担当 趙恩京(ジョ・ウンギョン)

【関連イベント】

(1) 螺鈿漆工芸 講演：韓国の螺鈿漆工芸の伝統と匠について

ソウル工芸博物館のキム・スジョン館長が韓国螺鈿漆器の歴史と特徴をわかりやすく解説します。

- ・日時：2026年6月4日（木）14:00～15:00
- ・会場：駐日韓国文化院 5階 ハンナレホール
- ・講師：ソウル工芸博物館 キム・スジョン館長
- ・参加費：無料 ※事前申込制（申込終了）



(2) 螺鈿漆器 実演：人間文化財による螺鈿技法の実演

- ・日時：2026年6月4日（木）15:15～15:45
 - ・会場：駐日韓国文化院 1階
 - ・実演者：韓国国家無形遺産「螺鈿匠」保持者、チェ・サンフン人間文化財
 - ・参加方法：自由参加、事前申込不要
- ※参加者が多い場合は人数を制限する場合があります。



【主な作品】



〈螺鈿漆山水文函〉図案、全成圭 作



螺鈿漆山水文函、全成圭 作



螺鈿漆牡丹唐草文合、崔相勳 作



螺鈿漆十長生文宝石函、孫大鉉 作

※本展は、韓国・文化体育観光部と韓国国際文化交流振興院（KOFICE）の2026年 Touring K-Arts 事業の一環として東京から大阪へと続く巡回展として開催されます。